

ご挨拶

医療法人立川メディカルセンター
理事長 吉井 新平

2024 年度立川総合病院年報には全職員による活動記録や統計資料がすべての領域において詳細に記載されております。高度救急救命を預かる民間急性期病院の現況をつぶさに見て頂ければ幸いです。

今回は立川メディカルセンターの現況や取り巻く環境等につき、述べさせていただきます。

2024 年から 2025 年にかけて世界中、あらゆる領域において激動となっています。戦後 80 年、世界的な変動の予感がします。本邦でも大きな災害が続きました。新たな災害に対しての強靱化が求められており、私たちも日々備えていきます。

医療・介護においては人口減少、受療行動の変化、コロナ関連補助金終了、物価高騰などで病院経営の悪化が顕在化、新潟県では公立・公的病院の経営悪化に対し県主導で対応と報道されております。公的病院本来の役割に基づいた実りある改革を期待しております。

当法人経営も例外なく、メイン銀行からの支援で「プロジェクト 25」と称した改善計画を実施中ですが、このプロジェクトを通じて法人職員の底力を実感しております。

思い起こせば中越地震、中越沖地震、東日本大震災、コロナパンデミック、さらに言えば立川総合病院の新築移転も大事業でしたが、職員一丸となって乗り越えてきました。

しかし 2024 年は物価 2.5%上昇、他産業平均 5.1%の賃上げで本年も同程度が予測されるところ、長年続いてきた医療費抑制政策により医療・介護に懸命に勤しんでいる方々への賃金は減額を余儀なくされました。影響は全国に及び、新人医師たちの診療科選択の偏り、医療系人材不足をもたらし、昨年末には「崖っぷち」と著名な経済週刊誌に特集されました。現場感覚からは地域医療は早晚「どん底」に転落と危惧しております。

但し当法人にとって明るい材料はいくつかあります。

昨年の総選挙の結果政権は少数与党となりました。今後与野党問わず国会議員諸氏さらに政府・財務省・厚労省においては医療の現状を直視し、特に高度救急救命に携わる急性期病院の危機的状況改善に直結する大政策転換を期待します。高度救急救命の存続は地域社会に必須です。

幸いにも 2025 年 6 月 13 日に閣議決定された「骨太の方針」では診療報酬の増加にかぶせていた「高齢化による増加分のみ」のキャップを外すとの方針が明確に記載されました。

日本医療法人協会の緊急報告（2025 年 6 月 1 日）では詳細なデータ分析から、医療機関の立て直しには病院診療報酬は少なくとも「10%を超える本体プラス改訂が必要」との提言がなされています。来年度診療報酬にどのように反映されるか、注視していきます。

立川総合病院の消化器内科常勤医不在が続いておりますが、2024 年 7 月から昭和医科大学横浜市北部病院消化器センターから週 2 回の応援が叶いました。今年 8 月からは週 3 回となりまさに有難いことと感謝申し上げます。

消化器内科常勤医不在は生命に直結します。現在も長岡赤十字病院様、長岡中央総合病院様ほか多くの関係者にご協力を頂いておりますが、両病院の働き方改革に多大な影響をもたらしております。当院マッチング内定者の辞退も相次ぎました。本問題は中越医療圏のみならず全県的に取り組むべき最重要課題と言わざるを得ません。

2025 年度には北陸道大積スマートインターが完成予定、国道 8 号をへて東西道路に繋がる連絡道路の工事も進んでおります。現東西道路をさらに強靱化すべく渋滞の多い交差点改良や立川総合病院南側融雪化も進んでおります。東西道路は新潟県中央部の東西を貫く大動脈かつ県南部の 3 重の環状道路網構想の中心に位置し、上越・魚沼とのアクセスが大幅に改善します。医療機能集約化にも多大な寄与が見込まれます。当法人 3 病院も最短時間で結ばれます。

悠遊健康村病院の入院透析施設は順調に稼働し現在約 40 名の方に利用頂いており、今年も定員増の予定です。その効果は想定以上に多方面に及んでおり、さらに現在通院透析されている患者さんや導入予定の方々の将来不安の払しょくにもなっています。

柏崎厚生病院群では柏崎・刈羽地域の現状と将来に密着し、医療・介護を通じて継続的に地域貢献を展開すべく、幅広く情報収集を行い課題につき解決していきます。

様々な試練に直面する中、私たちの使命は救急医療をはじめとした地域医療の質と量の堅持、医療需要への的確かつ迅速な対応、医療人育成など未来への投資を着実に進め、患者さんにも職員にも選ばれる魅力ある法人となることと認識しております。

2025 年度、立川メディカルセンターでは交代を含め医師 24 名、看護職 50 名ほか職員 67 名、計 91 名の職員を迎えました。令和で最も多い入職者です。

本年度も皆様にとって実り多い良い年になることを心より願い、ご挨拶とさせていただきます。

2025 年 6 月 26 日